



今号の内容

- 普及に移す試験研究成果の紹介
- 取り組み中の研究課題の紹介 など



夏秋トマトの摘花房^{てきかぼう}処理による夏季の収穫量抑制と秋季の収量増加

【本所:矢島】

【背景と目的】

飛騨地域の夏秋トマトでは、8月に出荷が集中し収穫作業が過重となる一方、管理不足により9月以降の出荷量が減少することが課題となっています。本研究では、摘花房処理(図1)により夏季の収穫量と作業負担を抑制し、秋季の販売額を向上させる技術を開発しました。

【成果の内容・特徴】

- ・7月上旬に開花している最上段の花房を摘除(摘花房)すると8月中旬頃の収穫量が抑制される。
- ・摘花房処理により、収穫作業時間が減少し、管理時間が確保できる。
- ・また、草勢が強くなることで秋季の収量が大幅に増加(+1.5t/10a)し、A品率が向上し果実品質が改善され、販売金額が増加する(表1)。

表1 摘花房処理による収量・品質・販売額の向上効果(R7)

集計期間	試験区	収量 (t/10a)	A品率 (%)	販売額 (万円/10a)
全期間 (7/3~10/31)	摘花房処理	21.9 (+0.1)	64 (+4.5)	725 (+28)
	無処理	21.8	60	697
秋季 (8/21~10/31)	摘花房処理	8.6 (+1.5)	58 (+8.8)	359 (+66)
	無処理	7.1	49	293



図1 摘除する花房

クリ主要品種の毬落ち性^{いが}評価と機械収穫適性の評価基準

【支所:勝見】

【背景と目的】

クリ栽培における収穫作業の省力化に向け、自走式収穫機やイガ剥き機が市販化され、県下クリ産地でもその活用が期待されています。自走式収穫機の回収率は、果実よりイガの方が高いことから、収穫機の性能をより効率的に発揮するためには、イガの中に果実が入ったまま落果するイガ落ち性の品種が望ましいと考えられます(図2)。そこで、県内の主要品種についてイガ落ち性ならびにイガ剥き機を使用した場合の剥毬率(イガが割れて実が出る割合)を調査し、機械収穫適性の評価基準を策定しました。

【成果の内容・特徴】

- ・「えな宝来」、「ぼろたん」はイガ落ち率が高く、「えな宝月」、「利平ぐり」は実落ち率が高かった。
- ・剥毬率は全ての品種で85%以上であった。
- ・イガ落ち率と剥毬率の積を算出し、機械収穫適性として、0.8以上を「高」、0.5以上0.8未満を「中」、0.5未満を「低」と評価し、「丹沢」、「えな宝来」、「美玖里」、「ぼろたん」、「筑波」の順に高かった(表2)。



表2 主要品種の機械収穫適性

品種	機械収穫適性		品種	機械収穫適性	
	2025 年	2024 年		2025 年	2024 年
えな宝来	○[0.64]	—	筑波	○[0.53]	○[0.67]
丹沢	○[0.75]	—	利平ぐり	△[0.24]	△[0.42]
ぼろたん	○[0.62]	◎[0.89]	美玖里	○[0.63]	○[0.67]
えな宝月	△[0.47]	△[0.23]	※機械収穫適性:◎(高)、○(中)、△(低)		

図2 「えな宝来」のイガと果実の様子
(A:イガ落ち、B:実落ち)

【背景と目的】

糯米「たかやまもち」、酒米「ひだほまれ」は実需者から高い評価を得ていますが、秋の長雨により穂発芽しやすい品種であり、近年の異常気象下ではさらにリスクが高まると考えられます。そこで、穂発芽耐性遺伝子を導入した品種の育成を進めています。

【これまでの成果と今後の見通し】

穂発芽耐性遺伝子を交配により導入し、戻し交雑を繰り返し(糯米5回、酒米3回)行い、個体を作出しました。作出した個体は、個体選抜および系統選抜を行い、R7年度までに糯米は15系統、酒米は3系統まで絞り込みました。選抜した系統は穂発芽耐性が「たかやまもち」および「ひだほまれ」より向上していることが確認されています。今後、試験醸造等を行い、実需者からの加工評価を受けながらさらに系統を絞り込んでいく予定です。



図3 穂発芽発生程度の比較

左:「ひだほまれ」

右:穂発芽耐性遺伝子の導入系統

「酔むすび」の収量品質向上を目指して

【支所：小川】

「令和8年度第1回「酔むすび」産地づくり研究会」が、7月2日(木)に当所及び現地を会場に開催されました。

当日は雨が降る中、「酔むすび」を生産されている11団体の生産者に加え、多くの関係機関の方々に出席いただきました。

室内検討では、中津川支所における本年度の試験内容、東濃・恵那地域の栽培状況の説明、関係機関から高温対策等の情報提供が行われました。また、圃場視察として、中津川支所及び(農)はちたかの「酔むすび」生産圃場を見学しました。

令和8年度で「酔むすび」の現地栽培は3年目になります。今後も収量・品質の向上に向けて、生産者、関係機関で連携を取りながら栽培を進めていきます。



図4 研究会の様様

上:(農)はちたか圃場における生育確認
左:担当研究員からの試験内容説明

●試験研究中間検討会を開催します

本年度の試験研究の進捗状況を圃場で紹介します。皆様からのご意見・ご要望をお聞かせください。詳しくは、案内文書および当所HPにてお知らせします。

○ 本 所(飛騨市古川町) 9月 4日(金) 13:30～

○ 中津川支所(中津川市福岡) 8月 26日(水) 13:30～



水稻の検討状況(R7中津川支所)

